

The Journal of True Care

2014
秋号
Autumn
[Vol.23]



株式会社創心會® 機関誌
2014 年秋号 Vol.23

「信念をもって取り組む」

- ・ 巻頭言「トップと語ろう」 02
- ・ 提言 08
- ・ 特集 ～事業活動の社会的価値を高める～ 11
- ・ コラム 18
- ・ 現場レポート 19
- ・ 感動体験 心のバトン 23

The Journal of True Care

2014
秋号
Autumn

【Vol.23】

» INDEX

P02-07	「トップと語ろう」 ～新入社員第三回・第四回・第五回メンバー～
P08-10	提言 児童発達支援ルーム心歩 保育士 徳森ますみ
P11-17	特集 ～事業活動の社会的価値を高める～ 訪問看護リハビリステーション 作業療法士 城戸千奈実 グループホーム心から 社会福祉士 植田貴也 訪問看護リハビリステーション岡山 作業療法士 森宏明
P18-19	コラム 本物ケア推進部 佐藤健志
P19-22	現場レポート 支援本部 内部監査室 室長 宮内祥 支援本部 総務 松本高幸
P23-25	感動体験 『心のバトン』 訪問看護リハビリステーションサテライト築港 理学療法士 田邊由人 生活環境プランニング 福祉用具専門相談員 谷口諒
P25-26	ニュース 編集後記

「トップと語ろう」

～新入社員第三回・第四回・第五回メンバー～



はじめに

今年のトップと語ろう会（以下、語ろう会）は、新入社員同期会役員3名と、人事部で企画進行しています。当企画は平成19年度から継続しており、趣旨は変わりなく、社長と新入社員が懇親会を通じて、個人目標や悩みを共有し、前向きな気持ちを得る会です。

今回は第三回、第四回、第五回の開催の模様を紹介します。

二神社長と語りたいこと

【第三回メンバー：訪問看護リハビリステーション 荒木末久 大塚寛之 大平聖子 土谷俊輔 西谷映人 二宮孔起 グループホーム心から 大賀雅夫 リハビリ倶楽部 琴浦 安永綾佳 支援本部 大橋寿代】

荒木 目標は社会参加にアプローチできるOTになりたいです。質問なのですが、私はよく泣きます。フィードバックを頂くとときにも泣いてしまいます。そのためうまく相談することができません。改善策も考えつかず悩んでいます。どのように考えたら良いでしょうか。

社長 もし泣くことで気持ちが軽くなるのならそれはあなたにとってよいことです。ただし、私たちはプロとして仕事には泣くべきではない、ということも求められます。もし利用者様のことを考えて、可哀想というような感情で泣いてしまうことがあるのなら、それも本来はよくないことと私は考えています。なぜなら同情してしまうと専門職としての器量が発揮できなくなると私は考えています。なぜ泣いてしまうのかということが自分でわかっていないのなら、まずはそこから分析していきましょう。まずは自分を受け入れること。他人を認めること、受け入れることで変わっ

てくるのではないのでしょうか。

大塚 目標はご利用者様にとって、意味のある作業を提供し、在宅生活を充実して過ごしていただけるようにアプローチを実施するOTになりたいです。

その上で、主体変容能力とコミュニケーション能力を向上するために必要なこととはどんなことですか。

社長 感性を磨くこと、人の心の動きに関心を寄せること。なぜ？と常に考えること。波動を感じることに。

波動とはエネルギー。人間関係には脳波、波長というものの影響があるということを知っておくこと。

例えば、私とあなたが今どういう距離感にあるかを感じ取ることに。物理的な距離間だけでなく、心地いい距離間というものがある。これ以上近づくと緊張する。相手の緊張が伝わる。ここまで近づいてもOKだなという感覚がわかるかな？人間関係ができていない間に近づくとお互いに緊張する。ちょっと行き過ぎたと思ったらその場合引けばいい。

遠すぎても相手は不満を感じることもある。つまり空気を読めるという能力とは、その場の空気の変化がわかること。

身に着けるためには、日頃から人の心の変化に関心を寄せること。利用者の前で緊張しやすいのであれば、そして良いイメージを常に持つておくこと。第三者的に自分を見て、イメージと現実とがどれくらい乖離しているかを見つめること。

大平 目標はキャンセルを全て振り替えて頂き、ご利用者様の気持ちに添ってリハビリを実施することです。

質問は高松センターについてです。今私は香川県から通勤しています。地元善通寺で訪問リハをしたいというのが夢ですが、香川に訪問看護ステーションを作ることはお考えにありますか。

社長 思っています（高松だけでなく）。だけれどもそのためには、今の高松センターの稼働率をもっと高めないといけません。何事も新規出店をするときには、必ず初期投資（設備費や人件費）が発生します。その投資額が回収できるようになることが最初のハードルです。つまり損益分岐点（収入と支出が同じになる）に到達していないうちは、次の展開には進めません。もしあなたが、強い志で地元進出を考えてくれるのなら、ダイを立ち上げること

や訪問リハをやるなら、看護師さんを3名は獲得しなければならないので、そういうことができるように経験や準備をしておいてくれると有難いです。これは香川だけでなく展開できる条件が合うなら出したいという意欲はもっています。

土屋 目標は、ご利用者様が参加に向けていけるようにアプローチをしていきたいです。

そこで相談なのですが、ご利用者様のニーズとご家族様のニーズが相反する場合、どのようにアプローチを行えばよいですか。

社長 マクロ善でのケースバイケースで対応することです。物の見方は全体で見ることと、部分で見ることの二種類に分かれます。「マクロ」とは物事を大きく見ること、「善」とはそれを善しとすることです。その利用者様の場合だと、一言では言えないケースだと思います。基本的には私たち専門職が一番に見なければいけないのは利用者様のことなので、家族の意向を聞いていると納得いかないこともあるかもしれません。ただし家族と利用者当人との関係性は、相互に要因があるものとも思っておいた方がよいと思います。だから、マクロ善で見ていくというスタンスでそのときそのときの結論を大事にしていくことを私はしてきました。ご家族に対して提案をする場合は、この利用者様の人生を背負う気持ちを持って臨むこと。その覚悟がないのに主張するのはよくないと思います。

西谷 目標は、ネガティブな考えよりもプラス発想を心がけ、ご利用者様とともにリハビリを楽しみながら行えるPTになりたいです。ご利用者様のニーズを導き出すためにすべきこととはどんなことですか。

社長 私は開業したばかりの当時、周りから否定されて、とても苦しい思いをした経験があります。自分ではそんな思われ方をされるなんて思ってもみなかったし、世の中の為に良いことになればと思って行動していました。制度改正があったときも社員を守りたい一心で、国家権力にも立ち向かっていったこともありました。そんな苦境でも信念は曲げなかった、“やれるところまでやる”という姿勢。支えてくれた仲間・社員たちを守りたいという気持ちで奮い立てました。ネガティブに考えて何とかなるのならやるけれど、実際はそうはならないでしょう。私の経験上好転したことはありません。むしろ信念を持った姿勢を見せ続けることで、周りの態度や環境が変わってきます。

ご利用者様のニーズを導き出す為には、専門性を高めて、アセスメント能力を身に着けることです。専門性が高まるとアセスメント能力が身に付くのです。マイナス面のみを見るのではなく、プラスの面を見る能力を身に着けることです。そして「参加」「活動」の視点を持つことです。

二宮 目標は、新人の中で誰よりも訪問件数を充足し、常に感謝の気持ちを忘れずにありがとうカードとして月に20

枚渡すことです。社長はご多忙のことだと思いますが、社長がそこまで会社や私達社員のためにご尽力なさる源は何か教えていただきたいです。

社長 愛です。世の為人の為に事をなすことが、己の喜びになることを理解すれば、難しいことはないと思います。そういう気持ちに到達するには、相当な苦労が必要だけど、不可能は絶対にはないのです。特に皆さんのように若いうちはどんな自分になりたいかとうイメージを持続けることをして欲しいです。そのイメージが源となって、必ず実現に近づこうと頑張れます。

大賀 目標は、創心會の新しい取り組みを作り出していきたいです。そこで創心會流のグループホームを確立するための取り組みについてアドバイスをいただきたいです。

社長 新しいことをしようとするのであれば、できるだけ視野を広げること。新しいことをしようと思うほど、ニッチなところを見つけて取り組もうとしがちになるが、それはたいてい上手くいかない。全体像が見えていなければ、その提案は独善的なものになりやすい。そういう傾向があると、思考も独善的になりやすい。何で周りは自分の提案を解ってくれないのか？っという気持ちになる。だから全体像を掴み取ることの方が大事ということ。遠回りな様だけれども、実はそっちの方が結果的には早くなると私は思っています。この先、認知症が大きな社会問題になることは間違いない。一方で認知症だからといって、独自のサービスとして展開ができるかといったらそれはできないと思っています。なぜかという、基本的に社会保障制度の中でサービスを提供するというのがこの国の制度だから。その制度ルールの上に乗っかって独自性を出すのならよいのだけれど、それとは別で展開しようとするのであれば生半可なことでは達成しないと思います。世の中を動かすだけのエネルギーがないと実現しない。不可能ではないと思いますが、相当なエネルギーがいります。ニーズを掴み取ることが大事です。

安永 目標はパーソナルトレーナーを会社に広め、車椅子から自立歩行できる方を増やすことと、地元愛媛に創心會を創設することです。会社の求める自分の将来像とはどのようなものですか。

社長 あなた自身の特性を明らかにし、会社の方向性と同じベクトルで、成長していただくことが重要だと思います。できるだけキャリアアップしてもらいたい。県外進出していくということは、アウェイな環境に出ていくということだから、相当な覚悟をもってもらいたい。またこの国の高齢化のピーク時期が迫っているので、あまり時間はないと考えています。遅くとも5、6年の間にチャレンジするべきだと思います。それを過ぎるとチャンスが減っていくと思います。

その目標を実現するためにはトップダウン思考をお勧め

します。つまり5年後の目標到達点から逆算して、すべきことを計画的に取り組むことです。私たちの仕事というのは、やりましたけどダメでしたと言って、簡単に撤退できるものではありません。それだけ責任の重い仕事（経営）を任されているということを解るようになることです。

大橋 目標は、総務として物品管理等を今一度しっかりして、現場の方の力になることです。支援本部で一番年下のため、不安に感じる人がたくさんある中で、こういった取り組みを実践するべきですか。また、今支援本部に必要とされている姿はどういった存在ですか。

社長 不安は誰にでもあります。無駄な仕事はないと考えるクセをつけること。一つひとつの仕事に真心を込めること。当たり前のことですけど、どう感じますか。この作業が、会社のどのようなことに繋がっているのかを考えられるかどうかは境目となります。例えばある人にコピーを頼んでも、違いが出ます。そのコピーされた書類が、後にどのように活かされていくのかを考えている人かどうかで全く違いが出るのです。例えばそのコピーの仕事が1億円の仕事を獲れるかどうかの重要な仕事だったとしたら。私は色々な仕事を色々な人に頼みますので、その差をすごく感じています。

とにかく頼まれたその仕事について、その最高の仕上がりで仕事をしようとイメージしたらどうでしょうか。そして、その仕事ぶりは実は誰か見ていて、認めてくれていて、誰かに伝えてくれていることもあります。ぜひ楽しんで取り組んでください。

● 二神社長と語りたこと

【第四回メンバー：リハビリ倶楽部 笹沖 安部泰士 田中彩華
元氣デザイン倶楽部 笹沖 明比佑真 川上紗矢 五感リハビリ倶楽部 笹沖 上田紘花 リハビリ倶楽部 中洲 岡田美弥
坪井祐有子 訪問看護リハビリステーション 川端貴弘 中村隼】

安倍 目標は、創心會の一員として必ずリハケア講座に出席し、講座を修了させリハケア専門士になります。

質問なのですが、ご利用者様の心に寄り添うために社長が行ったことについて、印象に残っている成功事例と新人にとってありがちな失敗事例を教えてください。

社長 成功事例というと答えにくいのですが、常に距離感を感じて調整すること、独善的にならぬこと。人は自分とは違うということの理解を深めること。何より親身になることです。コミュニケーションに関することで、課題を感じている意見は多く聞かれます、これは経験を積むこと。特に君たちの年代はそういう実体験が乏しいのかもしれない。時には相手と衝突し合ったり、寄り添ったり、遙かに年上の人と接したりする等、人間関係とは何かという実体験があると乗り越え方がわかってきます。

田中 目標は、目標としている先輩スタッフのいい所を真

似て近づけるように、ご利用者様の心に寄り添い、今後生活相談員としてご利用者に何かひとつでも生きがいを持って、毎日をご過ごしていただけるようなアプローチ方法を勉強していきたいです。

お聞きしたいことですが、ご利用者様の創作の趣味を活かした過去の取り組みには、どのようなものがありますか。

社長 私自身が現場に関わった当時は、趣味的活動のアプローチは殆どやりませんでした。活動へ誘える身体と心を整えることが私の仕事でした。趣味的な活動がその人の生きる気力を引き出していくという場合はあると思いますので、そういう観点でどうぞやってください。例えば人の心が元気になることは、人に認めてもらうときに多くあると思います。創った作品が認められるということが、それにあたることにもなります。そういうことを行う上で、その利用者様の趣味的活動がどのようなニーズがあるかマーケティングの視点と「活動・参加」の視点と上手に考えてみてください。

明比 目標は、役職を持ち、地元愛媛に創心會を作りたいです。地元で創心會のリハビリをたくさんの方に感じていただきたいと思います。

教えていただきたいことは、愛媛に創心會を作るために今後どのような目標をたて、どのような人財となればよろしいでしょうか。

社長 まず、いつぐらいにそれをやりたいと思っていますか？物件を決め、設備を決め、スタッフを決め、それらのことを準備しようとするならば、1億円くらいの運転資金の準備が必要となる場合があります。あなたのそういう気持ちに賛同してくれる応援団のようなチームを作ることが大切です。目標のために自分たちに何が必要かを考え合うような場を作ってみればよいと思います。そして不屈の精神を持つことです。

川上 目標は、ご利用者様とコミュニケーションをしっかりとって、ご利用者様が求めていることをきちんと把握すること、そして、私の中での今後の目標にもしている一番



にお出迎えすることを徹底していけるようにしていきます。

配属されて4ヶ月が経ちますが、毎日先輩方にたくさん
のことを教えていただき、学ぶことがあるのですが、新入
社員のうちにおくべきことや、新入社員にしかできな
いことがあれば教えていただきたいです。

社長 良い癖をつけることです。働き癖、学び癖、それを
新入社員のときに身につけておけば、その人は自然と伸
びます。してはいけないことはサボリ癖です。ここぞとい
う局面で楽な方に流されないことです。一回流されると、
「まあいっか」という気持ちを持ちやすくなります。そして
チャレンジすること。失敗しても悪意がない限り、「ごめ
んなさい」と言えば許してもらえるのが新入社員です。ピュ
アであることが大事で、そういう姿勢で行ったことの失敗
には必ず社内の誰かが守ってくれます。あとは人がやりた
がらないことを少しでもやろうとすることですね。

上田 目標は、創心會における音楽療法を確立し、音楽
療法士として本物ケア推進部の一員となることです。新し
く事業などを始めていく際に、二神社長が大切にしてい
ることや注意していることなどがありましたら教えてください。

社長 新しいことを始めるときに考えることは、世の為人
の為になることか、誰かを幸せにできるのか。また他人
に迷惑をかけないことか、責任をとれるのかということだ
す。やりたいからといって、自分の欲だけでは物事は動か
ないのです。そして経済システムに合うことかというのが
判断基準となります。物事には必ず経費がかかりますので、
それをする中で、必ず経費以上に収益が出るシステムに
なっていないと、良いことであっても続けられないのです。

岡田 目標は、旅倶楽部を発展させ、ピアグループとして
の機能の安定を支援することです。

社長が考えている、地域におけるセンターの役割と地
域とのつながりについて教えてください。

社長 地域の特性に応じて、その地域の長所のファシリ
テーターになること。いろんな世代をつなげることじゃな
いかなと思っています。もちろん実現するには難しい課題
もあるかもしれませんが、あなたがいろんなチャレンジを
してくれたらありがたいと思っています。色んな具体的な
事例を勉強してみたいか？自社だけでなく、町おこし事例だとか。

坪井 目標は、一年後か何年後か学生時代に取得した資格
(ヘルパーや保育士)を生かした仕事(業務)を行うこと
です。

質問なのですが、なぜ地元である愛媛ではなく本社を
茶屋町に建てられたのですか。

社長 一番は甘えないこと。何かの本を読んだことがあ
ったのです。地元じゃない所で事業をしている人の方が成功
しやすいというような一説でした。そして茶屋町を選んだ

のは、地の利があると感じました。四国にも、倉敷にも
岡山にも行ける交通環境で、不動産価値的にも良い立地
だと思いました。

川端 目標は、一日訪問6〜7件、月に1回以上の研修へ
参加します。訪問の合間に中洲デイにより、正社員、パー
トの方と密にコミュニケーションを図り、1年後にエリア
リーダーになります。

質問ですが、社長の求める訪問リハ、デイでの新卒社
員の働き方とは一体どういったものですか。

社長 とにかく一生懸命。それは周りの誰からも評価され
るぐらいの一生懸命さです。一生懸命やった人だけが自
身の特性にいち早く辿りつけます。そして特性が役割・使
命となっていきます。

中村 目標は、新人の中で最も多くの訪問件数を維持し、
稼働率No.1を継続することです。

質問ですが、今後、創心會人としての療法士に求められ
ることを教えていただきたいです。

社長 マクロ視点、トップダウン思考、参加へのファシリ
テーターですね。

現状評価から治療方法や対応を考えていくが、私たち
の場合は、3年後、5年後。その方の将来のイメージの
中から今何をしていくべきかという考え方になるのです。
そしてICFでいう、「参加」のファシリテーターになること
です。

今後リハビリの世界も大きく変わっていきますので、そ
ういうことを意識において頑張ってください。

● 二神社長と語りたいこと

【第五回メンバー：リハビリ倶楽部 笹沖 亀山千尋 リハビリ倶楽部
玉島 脇坂真依 小沼慎太郎 五感リハビリ倶楽部 玉島 西山千絵 リハ
ビリ倶楽部 水島 高田翔太 津田彩花 リハビリ倶楽部 笠岡 青野克也
郭成行 寺瀬孝之 リハビリ倶楽部 新涯 三好麻友 山久博章】

亀山 目標は、朝早くから身体を動かしたりすることは、
肉体的にも身体的にもしんどいことだと思います。それで
も、「今日、創心會に来てよかった。また明日も来たい。」
などご利用者様の心に寄り添ったサービスが提供できる
スタッフになりたいです。

質問ですが、ご利用者様や二神社長に関わる方への感謝
の気持ちを表現するのに、言葉で相手に伝えるほかに
何かされていることがあれば、知りたいです。

社長 言葉より想い、態度です。言葉で伝えるということ
もすごく大切なことで、言葉に表すということは一番大切
なこと。だけど、言葉というものは怖いもの。だから大切
に使うべきです。言葉以外では、「行動に表す」という方
法があります。言葉に表すこともすごく大切なことだけど、
行動に表すことで相手の心に残るのです。相手の心に残
るような関わりをすることは難しいけど、それをこれから
探して行動に表していけば相手にあなたの気持ちは伝わり

ます。

小沼 目標は、生活相談員として、ご家族とご利用者様との関わりだけを大切にするのではなく、外部との連携を学ぶ1年にします。

質問ですが、生活力デザイナーとしてベッドリハに取り組んでいます。どういう気持ちで臨めばよいのでしょうか。

社長 人の身体に触れるということ、その上で心根がきれいであることですね。その利用者様の為に何が出来るのかを考えて、その人の人生を背負っていると思って臨むことです。そして自分の家族として関わっているという親身な姿勢で臨むことですね。

脇坂 目標は、ご利用者様の笑顔を引き出すことを一番に考え、楽しんでもらいながら前向きに訓練やリハビリ、体操に取り組んでいただけるよう関わっていきます。そして、ご利用者様の意欲が高まるような声かけをし、できることが少しずつでも増えていくことを実感していただけるように努めます。

質問ですが、ご利用者様といっても、男性、女性で考え方や目標達成に向けての進み方は違うと考えますが、スタッフはどのように関わるべきか、今までの経験談を聞かせていただきたいです。

社長 女性は自らエネルギーを出せる人が多いです。男性はなかなか。その特性をまず知っておくべきです。私の経験ですが、男性は母親や配偶者を亡くすと大変ショックを受け、その期間も長いのですが、女性は男性ほどではなく、その他高齢化しても新しい友人をすぐに作ったり、新しいことにチャレンジしたりすることができると思いました。女性の方が環境適応能力が高いのだと思います。あとはリハケア講座を学んでください。

西山 目標は、知的障害児から知的障害者へ変化していく中で、ご家族の方と共に考えていける就労支援を目指しています。

実際に就労支援につながった件数や、ご家族の方の反応はどうであったのかをお聞きたいです。

社長 和一久にしてもハートスイッチにしても開設して2年くらいです。創心會から就労支援につながった例といってもまだ数例ではないでしょうか。まだそれくらいです。これからそういう支援をもっと活性化していきたいのですが、若い利用者様で、就労支援を促進しようと考えて取り組んでも、家族が障がい者手帳の申請をためられることもあり、なかなか支援が結びつかない事例がありました。

高田 目標は、ご利用者様が笑顔で機能訓練を行う為に、どのような目標・課題を持つことが必要かを一緒に考え、その人にあったリハビリメニューを提供したいです。また、その目標を達成するためにも、他のスタッフと連携を図っていき、ご利用者様がすごしたい人的・物的環境を整え

たいです。そして、センターで今の自分にしかできないことを最大限考えて取り組んでいきます。

質問ですが、社長にとってのデイでのレクリエーションとは、どこまでの範囲がレクリエーションなのかが知りたいです。

社長 デイへの導入にはアセスメントに基づいた目的が明確になっていることでなければ、受け入れることはできません。何のために創心會が存在しているのかということを経営第一義に考えて欲しい。また私は現場で行っているレクリエーションのことをよく知りません。なので、もしレクリエーションの必要性があるのであれば、その目的や効果をしっかり説明できるように提案して欲しいです。

津田 目標は、動物を用いた癒しを提供し、動機付けにつなげることを目指します。

この一年で最も印象的な歓働体験を教えてください。(可能であれば、他の上長の皆様からもお聞きたいです)

社長 今の私の役割の上で挙げるとするならば、やはりスタッフの成長ですね。あえて個人名は出しませんが、私のイメージ以上にすごく成長しているなあと感じられる社員がいます。それと就労支援が少しずつ形になってきたことです。

青野 目標は、センター1のお品書きマスターになります。

二神社長がお考えになるリーダーとはどのような人間性を持った人材かお伺いしたいです。

社長 一言で言うならば、器量!胆力です。ポストに就いて偉そうな態度になったりする人は信用なりません。率先垂範で自ら実践する人。凡事徹底で掃除や基本的なことを継続する姿勢です。その他、うそつき、小手先勝負、肩書勝負の方は、実力はあっても結局は大成せずに終わるでしょう。

郭 目標は、農業指導員を目指し、デイ、和一久、ど根性の円滑な連携を図り、ご利用者様の社会参加につなげることです。

そこで、ネギを安定化できたら、次はどうする予定なのか知りたいです。また、ど根性ファームをこれからどのように広げたいと考えているのかも知りたいです。

社長 ネギを選んだのは通年で栽培できるから。それが収益ベースの安定にできると考えました。その次に障がい者・利用者の参加の場にしようと考えていますが、そのために環境整備が必要と考えています。障がい者が働けるファーム環境の整備ということで。ハウスの水耕栽培にできればとイメージしていますし、より利益の出る農業にチャレンジしたいと思っています。そして土に触れるという作業は障がい児の発達支援にとっても効果的ではないかと考えています。「畑の学校」というようなイメージで支援事業にできないかと思っています。

寺瀬 目標は、ご利用者様がご利用者らしく生活を送っ

ていただけるように、色々な活動へ参加していただけるようなアプローチが出来るようになりたいです。

質問ですが、活動に参加していただく前に、必要な評価ポイントを教えていただきたいです。また、活動に継続して参加された事例があれば教えていただきたいです。

社長 あなたのように精神科出身のあなただから言えるのですが、OTとしても、利用者様の身体的な評価ができるようになった方がいいです。そうするとあなたの専門性は物凄く強くなります。それをやった上で、色んな活動や参加にアプローチをイメージする上で、身体的な障害を負った人が精神的にはどのようなダメージを負っているかを解れるようになれると思うので、あなたはとてもいい立場になれると思うのです。精神科で培った経験は必ず活きますよ。

三好 目標は、利用者様を含め、スタッフ全員に目を向けることができるフロアリーダーになることです。

お聞きしたいのは、フロアリーダーになるために、何を意識して今働くといいか知りたいです。

社長 まず理想のフロアリーダー像を描くこと。モデルがいればその人の真似をしてみる。もしその理想像がない場合は、あなたが成りたい理想像をイメージし、それと現状の自分とのギャップを見ることで課題がわかり、実行に移すようにしてください。そういう意味では常に自身を客観的にみることが大切ですね。

山久 目標は、最初の一年で業務内容を全て把握します。二年目には先輩スタッフから引き継いだ内容を基盤に自分らしさを出していき、他の人には真似できないリハケアが提供できるようになります。三年目には後輩スタッフの指導ができるようになり、創心流の考え方を広めます。仲間を増やし、最終的には福山での創心會の知名度を岡山

と並ぶ事を目指します。

質問ですが、岡山における創心會の知名度がこれほどまでに高くなり、会社としてここまで成長できた理由は何だとお考えですか。

社長 一番要因は、自分だけでは絶対に続けられていなかったと思います。周りに同じ想いで目標を実現しようとしてくれた仲間・ブレーンがたくさんいてくれたことです。私がやれたこととすれば、「あそこに行くよ」と指をさせたこと。そこに一緒に行こうと言ってくれた仲間が多かったことだと思います。そういう仲間を探し求めたこともありましたが、今振り返るとそういう状態は冷静に人財かどうか見えていないことが多くあったと思います。自分から探しに行くよりも、むしろ向こうから近づいてきてくれる人を迎え入れる関係性の方が上手くいったと感じています。

その他に、私のやりたかったことと時流のタイミングが合っていたこと。つまり信念、やりたいことの軸がブレなかったこと。



提言

10年を振り返って



児童発達支援ルーム心歩 保育士 徳森 ますみ

● はじめに

このたび勤続10年表彰を迎えた私に、今日まで会社で働かせていただいた軌跡を執筆して欲しいとの依頼をいただいた。私なりに10年分の思い、今後の展望を書かせていただこうと思う。

● 創心會との出会い

私が初めて創心會の門をたたいたのは今から11年前のことである。前職を辞めヘルパーの資格を所得し、新たな仕事を探している時のことであった。パートバンクで創心會を知り、場所だけ確認してみようと本社を見に行ったのだった。その時は場所確認だけのつもりであったので、普段着でももちろん履歴書なども持っていなかった。でも何故か中の様子を見てみたいという思いになり、アポイントメントなしで飛び込んだのである。そんな無礼者の私を、快く対応してくださったのが大石常務であった。リハビリ倶楽部茶屋町を見学させていただいた時、自分が抱いていたデイサービスのイメージが崩された気がした。何らかのハンデを持たれている方たちなのに、どの方もいきいきとされ、暗いイメージは全く感じられず、とても前向きに見えたのである。

働いてみたいという気持ちになり、その旨を大石常務に伝えたところ、今はデスタッフの募集はないとのこと。残念ながら数日前に決まったとのことであった。縁がなかったのかと思いながら、本社をあとにしたのだった。

その飛び込み訪問から約半年後に、また私は創心會の門をたたいた。さすがにこの時はアポイントメントをとって訪問した。偶然にも二度目大石常務が対応してくださった。その際「あんた前にも来たことがあるな〜。」の一言から面接が始まり、最終的には「履歴書、こんなにいっぱいきとるんじゃないけどあんたに決めよう。」と言っただき、働かせていただくことになったのである。

今思えば失礼極まりない出会い方であったが、そんな私を採用してくださったことに対して、感謝の気持ちでいっぱいである。

● 無我夢中だった3ヶ月

私の勤務先はリハビリ倶楽部茶屋町だった。先輩スタッフの皆さんが丁寧に最初から教えてくださった。介護職は全く初めてだった私は、何もかもがはじめてで難しく自分のふがいなさに涙が出る日が続いた。メモ帳は3ヶ月で何冊作っただろう。そんな私に娘がお守りとして折ってくれた鶴は、今も私の社員証の中で応援してくれている。

S様の歩行介助をさせてもらっている時「お前なんかじゃダメだ。かわれ！〇〇さんと呼んで来い。」と言われ、思わずその場で涙が出た。「泣くな。わしが泣かしたみたいじゃが。」と言われた。でも私も負けず「いっしょに歩けるようになりたいからやらせてください。」と、くいさがったのである。その方にとっては迷惑な話だったと思う。そのため自宅では息子を相手に一生懸命練習をした。やがてS様とは次第に信頼関係が築け、出会いから半年位たった頃には、「あんたの言うことなら何でも聞くで。」と言ってくださるまでになった。

● 心に寄り添うということ・「できる」をみつけるということ

ここで事例を紹介したい。

事例1 やり方次第で何でもできる。

J様 脳梗塞による軽度の右マヒ70代の女性
目標 自宅に戻っての一人暮らし

デイのアクトの時間、しぼり染めをしコースターをつくる。染め上がった布は周りを縫って仕上げる。出来上がり寸法、一辺約10cmの正方形。しぼり染めは糸で生地を巻くことはご自分で実施。糸をとめるところを少し介助。あとは輪ゴムを使って模様を作った。そこまでは問題なく実施できた。問題はここからだ。J様の利き手は右手だった。もう縫い物はできないだろうとスタッフが思い込み、縫い物のできる他のご利用者様に縫っていただいたのだ。その時の顔と言葉が今でも私の脳裏に浮かんでくる。出来上がったものをJ様に手渡した。「このくらいなら、私にもできたかな？」この言葉を聞いて皆さんならどう感じるだろうか。私は、その何ともいえ

ない顔でコースターを見るＪ様に提案した。「もう一度しぼり染めを作ってまわりを縫ってみませんか。」Ｊ様はやってみたいと言ってくださった。では、どうやって縫うか？布の大きさは今のままでいいのか？実施方法を相談しながら進めていった。

発病後初めて針を持つとのことなので、布は前例の大きさでは少し小さいということになり、テーブルクロスを作ることになった。布は約30cm×20cmとした。糸は針を右手で押さえ、左手で通す。針の穴は大きいものを使用。縫う際は和裁の道具（図1参照）くけ台と、かけはりをピンチや廃材を使って作ることにする。幸いスタッフの中に裁縫が得意な方がおり、皆で協力して作ったのである。Ｊ様は利き手ではない手で、一針一針丁寧に縫っていかれた。完成したときの顔を今でも思い出す。何ともいえぬ笑顔だった。その様子を製作過程から見ておられた他ご利用者様方も自分のことのように嬉しそうだったのが印象的であった。



図1

● 繋がる波紋

嬉しい波紋が広がった。私もボタン付けがしてみたい。発症後はご主人任せにしていたが自分でもできるようにになりたい。そのご利用者様の場合はプランターを載せる台に刺繍枠（図2参照）を固定し縫いやすくしたのである。ご利用者様もご自分の役割りをもつことができたのである。

もうひとつの波紋。その後、ミシンを使って雑巾を縫うということも始まった。Ｊ様の事前情報の中の職歴に、動力ミシンを使っていたの内職とあったのを思い出し、ミシンを使って雑巾を縫っていただく役割を担っていただいたのである。利き足でない方でペダルを踏むのは力加減が難しいが、何度も練習して実施した。その様子を見ていた他ご利用者様もミシンに挑戦される方が何人が現れたのである。

自分が作ったものを家族、他者が使ってくれる。そこにその方の存在価値が生まれ、自信へと繋がっていったのである。

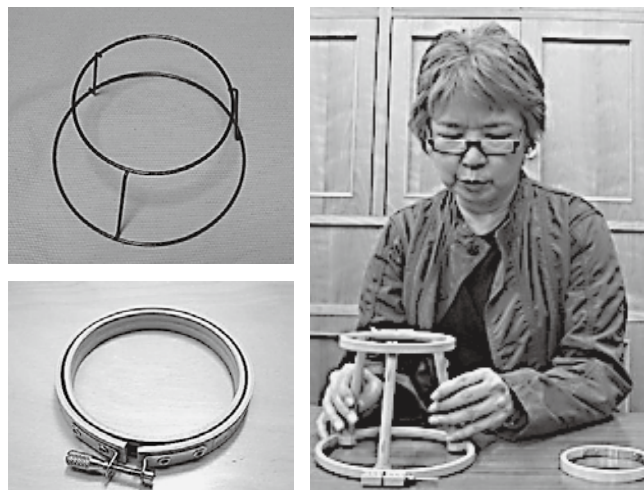


図2

● 旅倶楽部への思い

私が中洲センターに勤務しているとき、「旅倶楽部」の取り組みを始めた。始めるにあたってのきっかけは、ご利用者様とのたわいもない会話の中の一言だった。「徳森さんはいろいろ休みの日は外出の予定があるけど、私たちの予定は病院受診だけじゃなあ。」その言葉が胸に突き刺さったのである。そこで、何としても病院受診以外の外出をしていただきたと考え、センターミーティングで他スタッフに「旅倶楽部」の提案したのである。少々無謀というか思いつきで動いてしまう私に、周りのスタッフが様々なアイディアを出してくれ協力してくれた。無謀とも思われた旅倶楽部が、始動をはじめたのであった。

初回の参加された中には、デイサービスを利用するのも抵抗があり、どちらかというとききこもりがちなご利用者様もおられた。人に迷惑をかけることが一番嫌。歩くことにも時間がかかる。独歩ではうまく歩けない。食事もうまく食べられない。トイレも近い等出来ないことを並べられた。しかしそのご利用者様の心を理解し、より添ってくれたスタッフは勿論、ご利用者様同士の声かけは勇気に繋がったと思う。「気になることはみんな一緒よ。せっかくこの場で仲良くなれたんじゃから一緒に行こう。〇〇さんが来られなかったら寂しいが。私たちも団体旅行なんか何年振りじゃろうか？家族とは出掛けることはあるけど・・・。」等口々に励ましてくださった結果そのご利用者様も参加することができたのである。参加後、奥様から嬉しいお話を聞くことができた。「うちの人は、絶対行くとは思わなかった。でも自宅に帰ってきた時の、なんともいえない満足しきった顔をみて嬉しかった。今度また旅倶楽部があったらまた行くと言ったんよ。」と弾んだ声でお話して下さったことが、本当に嬉しかった。そして旅倶楽部に関わってくれたスタッフとご利用者様に、ただただ感謝の想いであった。しかし、ご利用者様方の努力が大きかったことが、第1回旅

倶楽部成功の鍵だったと実感している。デイサービス利用時の歩行訓練にも力が入り、それを見てのご利用者様同士の励ましあいも多く見られた。自宅での話をあまり周りの方とされなかった方も、「散歩続けてる？」の声が出るようになった。

今は、リハビリ倶楽部中洲をはなれたが、残ったスタッフが後を継いで継続して実施してくれている。ご利用者様の旅計画にスタッフが関わる割合も、本当に少なくなってきたとのこと。嬉しい次第である。

● 11年目を迎えて 新たなる挑戦

現在私は、創心会児童発達支援ルーム心歩笹沖に勤務している。私が中学生の時から夢であった障がい児に携わる仕事である。何度も何度も諦めかけていた夢が、53歳になった今、現実となったのである。心歩のスタッフに選んでいただき、本当に嬉しく感謝している。私が保育士として働いていた頃に比べ、障がい児を取り巻く環境も大きく変化してきている。学校の支援クラスの数も格段に増えてきている。実際心歩に見学、相談に来られる保護者の方も、わが子のことであるので真剣そのも

のである。そんな保護者の想い、子供たちの生きづらさをどのくらい支援していけるかはわからないが、心歩のスタッフ、他事業所のスタッフの皆さんの力をお借りして勤務していきたいと思っている。「子」ではなく「人」として関わり心に添った本物ケアを実践することで、ご利用者様・ご家族から信頼され何でも相談していただけるスタッフになりたいと思うのである。他人事と思わず自分の身に置き換えて対応していきたい。

● おわりに

私の想いを感じるままに書かせていただきました。今回このような執筆をくださった編集者の皆さまに感謝申し上げます。

あとこの十年間思いつきで動いてしまう、動物的な私と一緒に働いてくださったスタッフ全員に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。そしてこれからもお願いいたします。

最後に私の好きな言葉「あせらないけど、あきらめない。」私の師匠と思っているご利用者様の言葉である。



特集

～事業活動の社会的価値を高める～



結果を視える化すること ～写真付き状況報告書の 作成について～

訪問看護リハビリステーション
作業療法士 城戸千奈実



はじめに

今回、執筆を依頼され引き受けたものの、私は創心會に入社してまだ2年目で、まだまだ未熟者であり何について書くことが良いのか悩んでいた。そこで先輩方に相談し、現在ご自宅でのリハビリテーション（以下リハ）での関わりを通して取り組んでいることについて書いたら良いのではないかとアドバイスをいただいた。そこで、私たち（児島エリア）が取り組んでいることについて皆さんに知っていただきたいという意識が強くなった。

まず、私が訪問看護リハビリステーションのリハスタッフとしてご利用者様に関わっていく中で、感じたことがある。それは、ご利用者様が今までの写真を大事にしているということである。そしてそれは元気であった時の写真であり、障がいを負ってしまったからの写真が少ない、または無いに等しいということであった。そこに撮る機会が減ったということ、そして元気であった時との比較をして今の自分を受け入れたくない、という様々な理由があると考え。しかし、リハを通して関わらせていただく中で、日々ご利用者様の状態は変わっていく。良くも悪くも、結果を口頭で伝えるのには限界があるのではないかと感じた。そこで、リハの際に写真を撮り、その写真を視覚的に見ていただき結果を伝えるようになっていった。

今回の取り組みについて、タイトルにも記載したように、結果を「視える化する」ということについて私はこう考える。私たちが社会的価値を高めるには、日々接しているご利用者様はもちろん、それを支えるご家族、ケアマネジャー、そしてご利用者様を取り巻くサービス（訪問介護やデイサービススタッフ等）に認められることで

あると考える。それが顧客満足（以下CS）を高めていくことにもつながると私は考える。

結果を視える化して気づいたこと

最初に私が写真を撮り始めたのは、リハの介入の前後の変化をご利用者様に客観的に見ていただきたかったからであった。特にバランス訓練での効果というものは姿勢の改善にもつながるが、麻痺がある方に対して口頭で伝えてもご自身の感覚の違いで改善を感じる事が難しかった。そこで私は日頃から使っているタブレットで介入前後の写真を撮り、ご利用者様に見ていただいた。すると、初めて見るご自身の変化に「こんなに違うのか！」と驚かれていたのである。また、ご家族様にも見ていただくと、「もう新しいことができるようにはならないと思っていた。でもまだまだできるんだね。お父さん、凄いいじゃない！」と声を掛けられていた。これまでも、口頭で正のフィードバックをしていたが、全く違う反応であり私は驚いた。これは視ることによりリハ効果を実感することができ、ご利用者様、ご家族共に喜びを感じた瞬間であった。このことから、客観的に視ることの重要性を改めて感じた。それから、リハ中の変化や調理訓練の記録、目標に向かってリハをしていく過程、また達成した時、久しぶりに外に出た記念に・・・など様々な場面で記録に残していった。そして、それを紙面化しコメントも付け加えご利用者様に渡した。ご自分の姿に笑顔しながら見つめる方や、真剣な顔で「ここがもうちょっとこうなれば。」と改めてどうなりたいということを認識する機会にもなった。また、このことを知っていただきたく、担当のケアマネジャーにも渡した。「こんな報告書初めて。」と喜んでくださる方や、「できるようになったんだ。」と驚かれる方がおられた。写真に撮って報告したことについて、ケアマネジャーがモニタリングで訪問した際に、話していただけるように「次回の訪問時に、ご利用者様に聞いてみてください。」と言メモを添えるようにしている。リハの場面だけでなく、私ではない人に褒めていただくと嬉しいと感じると思うからである。実際、担当ご利用者様から「〇〇さん（ケアマネ

ジャー)からも褒めてもらえたわよ。』と聞くことがある。

ご利用様のリハの効果、また心の変化を伝えるツールとして一番分かりやすく、残っていくものであると感じた。

● チームで支える

ご家族、ケアマネジャーに対して提示することで、よりご利用様の努力を伝えることができたが、ご利用様を取り巻くサービスに対し発信することができていなかった。そこで、訪問看護（リハ）サービスとデイサービスを利用されている方に対してはデイサービススタッフにも見ていただき、声を掛けていただくようにした。

また、訪問介護スタッフに対しては、担当者会議の際に見ていただいた。ご利用様を取り巻く全ての人に見ていただくことにより、「できる」を知っていただくことができた。訪問介護スタッフからも、「訪問の時に自分でしてもらうように声掛けをしてみる」と言ってくださり、チームで支えることができていると感じた瞬間であった。スタッフそれぞれがご利用様に声掛けすることで、ご利用様も笑顔になり、リハはもちろん、日々の生活のモチベーションにもつながっていった。

● 記録から記憶へ

経過を写真で撮り、見ていただく中で、「この時はこうだったね」とご利用様が過去の自分との比較ができるようになった。これまでの写真を大事に保管され、アルバムを見ているような感覚で振り返られている。また頑張ろうという表情になっているのを見ると、記録に残しておいて良かったと感じる。

文頭でも述べたが、年齢を重ねるにつれて、写真を撮る機会が減っていると感じる。できることも少なくなり、喪失体験が増えていく中で、逆にできることを残していくこと、笑顔の表情を引き出していくこと、そしてそれを発信していくことが私たちの役割であると考え。日々の記録が、ご利用様にとってかけがえのない記憶になっていくことを期待したい。



● リハビリスタッフとして

現在、日々楽しく仕事ができていると感じている。それは、エリアスタッフでご利用様の「できた」ことに對して皆が写真を用い、嬉しそうに報告し合う環境があるからである。兼任しているご利用様はもちろん、引き継いだ後も経過を知ることができ、楽しみながら情報を共有できることは児島エリアの自慢である。

また、相談する際にも写真を見ながら、具体的に考え、様々な提案や相談ができる環境であることも感謝している。これからもご利用様の「できる」を発信していき、ご利用様にもご家族にもケアマネジャーにも訪問看護によるリハを利用してよかったと思っていただけるように努めていきたい。

● まとめ

今回の取り組みを通して、CSを高めるには、情報共有はより分かりやすい方法で発信していくことが必要であると考え。それは、ご利用様、ご家族様に対してはもちろん、ご利用様に関わるスタッフが共通して認識し合うことが重要であると考え。そして、他事業所に取り組みを知っていただくことができれば、徐々に創心會の社会的価値を高めることにもつながると考える。

● 謝辞

今回、執筆する機会を下さった編集部の皆様、エリアリーダーの笹川さんに感謝を申し上げます。そして、今回ジャーナルの執筆にあたって写真の掲載を快く同意してくださったI様、N様にも感謝を申し上げます。

共に悩み、考えてくれるスタッフがいる会社に勤めさせていただいていることに感謝いたします。



グループホーム心からの活動報告

グループホーム心から
生活ユニット管理者

社会福祉士 植田 貴也

共同執筆：中原明日香・藤田 幸恵

西本 幸恵・宗吉 和幸



はじめに

グループホーム心からが「事業活動の社会的価値を高める」為の活動の報告として、「社会に対する基本的責任」を担っている「運営推進会議」の取り組みを、「顧客に対する責任」に関しては生活・リハビリ両ユニットの取り組みを紹介する。

運営推進会議について

「運営推進会議」とは、ご家族様等当事者だけではなく、地域関係者をグループホーム（以下GH）にお招きして、GHの活動報告や皆様からのご意見をいただくことで、「地域とのつながり」を深める場である。

GH心からの運営推進会議の参加者は、ご家族様・地域包括の職員・民生委員・愛育委員の皆様である。内容は、現在の運営状況（空室状況・平均要介護度等）の発信から始まり、取り組みの説明（外出支援・実践調理・季節行事等）、地域資源の情報やアドバイスをいただき、今後のGH心からや創心會の予定をお伝えしている。時には看取りについての対応や事例検討を行ったり、ご利用者様との実践調理の様子をご覧いただいたりしている。

このように地域住民の方々にGHの活動報告をし、話し合いの場を設けることで、ご利用者様と地域との関わりが密になり、ご利用者様の人生をより豊かなものにしていける。そして地域に於いて、認知症ケアの在り方をより良いものにしていけるということに運営推進会議の意義がある。

今後はさらなる取り組みとして、地域住民参加型の防災訓練、ご家族や地域の方に向けた認知症の勉強会などを予定している。

生活ユニットの取り組みについて

現在、生活ユニットには、笑顔が素敵な8名のご利用者様が穏やかな日々を過ごしている。生活ユニットとは、直接的な介助を多く要する方や、ホームの中で居場所や役割を持ちながらも、ゆっくりと穏やかな生活を希望される方が、最後まで安心して穏やかに生活できることを目標にしたユニットである。生活ユニットの取り組みとして、拘縮予防等の個別リハビリ、外出支援、実践調理、

在宅復帰に向けた支援、ターミナルケアなどがあげられる。今回紹介させていただくのは、以前本物ケア学会でも紹介した在宅復帰に向けた支援と、ターミナルケアについてである。

在宅復帰に向けた支援

在宅復帰を目指しているご利用者様（以下A様）は、入居当初は抑うつ状態から抜け出せず居室に閉じこもり、またADLが自立しておらず排泄や移乗等ほとんどのことに介助を要していた。そんなA様はある方との出会いがきっかけで在宅復帰を目指すようになる。我々スタッフはADLの自立に向けたアプローチを提供し、A様も少しずつリハビリに積極的に取り組むようになった。小さな成功体験の積み重ねと、A様の在宅復帰に対する強い思い、また、その思いに応えようとする我々スタッフのアプローチが実を結び、A様のADLは自立、ホームの中で生き生きと生活している。そして、8月に行われた旅リハに参加、現在は、在宅に一時帰宅できるよう準備している。A様のみならず、おひとりおひとりのニーズに出来る限り応えられるよう、スタッフ一同日々心に寄り添ったケアを心がけている。

ターミナルケアについて

生活ユニットでは今年4月、10年以上入居されていたご利用者様の看取りケアを行った。食事や水分の摂取量が低下し、その後次第に食事・水分ともに摂取が困難になり始めた。食事ができなくなり始めた頃から、主治医・訪問Ns・家族とこまめに連絡を取り、連携を図っていった。その頃からベッド上での生活となり、食事は食べられなくなり、水分もほとんど飲めなくなった。ベッド上の生活が始まると同時に、低栄養による褥瘡予防のため体位変換を行い、こまめにバイタルチェックを行った。次第にバイタルが測定できなくなり、呼吸が荒くなってきた。医療現場では、食事ができなくなり始めると点滴を行い、医療機器を付け対応することが多いが、今回の看取りケアでは点滴もせず、医療機器も付けず、自然に亡くなっていくというものだった。看取りケアに初めて取り組むスタッフも多く、どのようにしていけばいいのかなど不安もあったが、毎日スタッフは出勤すると、そのご利用者様の居室に行き声をかけ、ご利用者様と接する時間を作った。それは、誰かがしようと言いだしたのではなく、自然とスタッフ全員がそのご利用者様の居室に行き声をかけるようになった。

今回の看取りケアでは、褥瘡・拘縮もなく自然に亡くなっていく姿を、多くのスタッフで見送ることができた。初めて看取りケアに取り組むスタッフが多い中、このようなケアを行うことができとてもいい経験ができたと思

う。人生の最期をどこでどのように迎えるかは、ご本人様もしくはご家族様の希望に沿って対応しているが、誰しもが穏やかに、そして人間らしい最期を迎えられるようスタッフ一同取り組んでいきたい。

● リハビリユニットの取り組みについて

グループホーム心からリハビリユニットは9名の個性溢れるご利用者様と、アイデア溢れるスタッフで毎日を送っている。今回の執筆に当たり、スタッフにアンケートを実施した。アンケートからスタッフが顧客であるご利用者様に対する責任を果たすため、日々悩み、考え、奮闘する中でうまれた様々な取り組みを紹介したいと思う。

リハビリユニットでの取り組みとして力を入れていることは、外出支援、実践調理、個別リハビリ、和太鼓療法などがあげられる。それぞれ一言では表せられないスタッフそれぞれの細かい配慮、工夫があり、それは毎日の観察、アセスメントのなせる業である。

まず、全ての取り組みの土台となる個別リハビリは、お一人おひとりをOTとの連携の上アセスメントし、それぞれに合った個別リハビリ表を用いて提供している。提供したいアクトなどのアイデアがどんなに素晴らしいとしても、ご利用者様がそれに対応できる状態でなければただの理想である。それを実現するためにも、日々の個別リハの積み重ねは重要だ。

個別リハビリで、土台を築いたら次は生活を充実していただくこと。誰だって住み慣れた家に帰りたいし、叶うことならそこで最期を迎えたい。自由にやりたいことをやりたい。だからきっと、ご利用者様の心のどこかにはいつも帰りたいという気持ちとさみしい気持ちがあるのではないと思う。私たちにはそれをすぐに実現して差し上げることができないから、せめてここの生活を充実したものにしていただけるよう考える。

● 実践調理

リハユニットの実践調理は、担当スタッフの想いと配慮から、旬の物の提供がされている。季節感を感じていただく事もでき、美味しい食事にみんなで舌鼓している。実践調理は月に2回以上行われ、ご利用者様のできる事を探し、全員が何らかの形で参加していただけるような工夫がなされている。うどんやパンなどは粉から作り、手作りの味をスタッフも楽しみながら一緒に調理し、畑にあるものは収穫からご利用者様と行う。2ヶ月に1回くらいのペースで、広報に協力いただき、他部門のスタッフを招待した実践調理も行っている。その時はご利用者様も少し余所行きお顔になられ、いつもとは違う雰囲気を味わっていただいている。

また、お誕生日にはリクエストをいただき主役の方の

食べたい物を提供させていただいている

● 外出支援

外出支援も月に2回以上、月ごとにスタッフが担当し、バラエティに富んだ外出先に出かけている。スタッフが担当することにより、他人事ではなくリハユニットのスタッフとしての当事者意識を持つことに繋がり、それがご利用者様に対する責任を果たすことにも繋がっているのではないだろうか。

外出先も、ご利用者様の家の近くや思い出が多いなじみの場所を選んだり、季節によってきれいな景色の場所を選んだり毎月各スタッフ頭を悩まし決定されている。外出日の担当になることの多いスタッフからは、外出先の認識をしていただくためにその説明や、ご利用者様の思い出話を車中でお話するそうだ。そうすることで、今まで知らなかったご利用者様の新しい一面や情報を知ることができ、関係を深めることができる。

外出支援の効果を挙げれば地域との交流や個別リハの成果の発揮など挙げられるが、何より私たちスタッフが一番うれしいことは、外に出ることが大好きなご利用者様の笑顔を見ることができることである。

● 和太鼓療法

和太鼓に関しては素人のスタッフたち。和太鼓療法について効果などの勉強をしても手探りであった。だが、そんな中でも和太鼓は届き実施。最初は経験のあるスタッフの指導のもと、ご利用者様の補助をしながら私たちも学び、取り入れていった。拒否のあるご利用者様もおられ、その方に対するアプローチを工夫しつつ、今では週に2回の和太鼓療法が定着している。その成果もあり、夏祭りではご利用者様が和太鼓を披露され、私たちは大いに盛り上がった。今では皆さん進行するスタッフを一生懸命みながら、週に2回の太鼓療法に取り組まれている。最後の乱れ打ちからの締めは、バッチリ揃うととてもかっこいい。

● アクティビティ

個別リハも実践調理も外出支援も和太鼓療法もその他諸々アクティビティだが、あえてアクティビティとくくったのは、リハビリユニットはご利用者様の特技をいかしたアクトがたくさんあるからである。リハビリユニットには庭いじりの好きな方、編み物がお上手な方、裁縫がお上手な方、料理がお上手な方、家事の大先輩がたくさんおられる。それぞれの特技を発揮できるよう、スタッフが工夫し提供されている。特技を発揮していただくことでご利用者様の自信となり、ご利用者様を頼りにさせていただくことで、リハビリユニットでの存在意義を感じ

じていただければと思う。リハビリユニットは、ご利用者様の作品がいっぱいあり、ご利用者様に家事を手伝っていただく事で一方的な受け身ではなく、ご利用者様とスタッフが一緒に生活している。まさに家のように。

● 庭

実践調理でも紹介したが、様々な方々のご協力のもと庭で野菜を育てている。時に味噌汁のいろどり、時に一品と姿を変え、食卓に並ぶ。庭でできた野菜を使った料理は購入した野菜を使ったものとは一味違い、新鮮で瑞々しくしっかりと野菜の味や香りと季節感を感じながら食事することができる。プランターには季節の花を植え、気候のいい時には庭に出て喫茶や2Fの皆さんとの食事会を行うこともある。庭での食事会は、長距離の外出が身体的に困難な方でも参加可能なため、ピクニック気分を味わっていただける機会になればと思う。他ユニットと比べ、気軽に外に出られる環境を今後も十分に活用し、ご利用者様の生活の充実に役立てたい。

以上5つが主たる取り組みである。GHのサービスは生活の場での提供であり、24時間365日切れることなく繋がっている。昼間は穏やかでも夜間になると不穏になる方もおられるし、眠れない夜を過ごされる方もいる。GHにあるのは、毎日という生活である。傍から見ただけでは余裕があるように見えることもあるかもしれないが、GHはゆったりとご利用者様と話す時間ができてこそである。必要な業務は効率的に遂行し、いかに上記のような取り組みの時間を確保するかというこ

とが求められる。

GHでは時にご利用者様の最期の時間や、瞬間を共有することもある。その最期を迎える可能性が高い部門だからこそ、日々の充実がご利用者様に対する大きな責任である。初めに述べたように、誰でもなじみの場所で人生の最期の時間を過ごしたい。だが、様々な理由でそれが叶わずその瞬間を迎えるのがGHならば、本人様には『家ではなかったけど、ここでもまあよかったかな』と、ご家族様には『最期がここでよかった』と思っていただけるような場所になれるように努めなければならないと考える。

● 最後に

認知症予備軍を併せると認知症1000万人時代は目前に迫っている。そんな中でGHがご利用者様・ご家族様・地域社会に期待されることは益々増えていくことだろう。ご利用者様が笑顔で住み慣れた地で生活を送れるようにチーム一丸となってこれからも認知症ケアに取り組んでいく所存である。

最後に、これらの取り組みについての執筆は初めに述べたスタッフからのアンケートを参考、引用することで完成させることができた。私1人では、ここまでの取り組みについて思いつくこともできなかったと思う。協力して下さったスタッフの皆さんに感謝でいっぱいである。

これからもアイデア溢れるスタッフ一同、よりよい取り組みの実施をめざし、日々奮闘していきたいと思う。

ご利用者様の思いに沿った 目標設定の重要性を感じた事例

訪問看護リハビリステーション岡山
作業療法士 森宏明



● はじめに

ADLは自立しているも、IADLなどの活動に消極的なご利用者様に対し、活動を拡大できるようアプローチを行った。関わりの中で、作業への目的付けを行うことで、ご利用者様の主体性が引き出すことが出来た事例を報告する。

● 事例紹介

今回発表するのは、ご主人と2人暮らしされている70代女性である。病前は、家事や庭仕事など主婦業をしていた。脳梗塞にて左片麻痺を発症し、近隣の病院に

X年4月～7月まで入院されていた。要介護度1。介護支援専門員(以下CM)、娘さんの意向により、退院直後より訪問でのリハビリサービスの利用を開始した。

● 入院中の様子(入院中の担当OTより聴取)

担当OTが真剣な話をすると冗談を言う、話をごまかす面があった。普段より表情は柔和であるも、こだわりが強い面がある。

● 初回評価

B R S：上肢Ⅳ、手指Ⅲ、下肢Ⅴ

上肢：リーチする時に、動作時に身体を側屈させるなどの代償動作がある。

手指：空のお椀・コップ(持ち手)を把持できるが、把持力は弱い。親指と4指が一緒に動いてしまい、物を把持する時に肩外転の代償が必要である。

HDS-R：15点

物の名前が出てこないことがあるも、日常生活では問題はみられない。

ADL：FIM：123/126。上衣4点 衣服を引き上げる際に、介助必要(汗をかいていない際は自立。)

IADL：何もしていない。(夫が実施)

趣味：歌番組視聴、手芸

本人の希望：左手が動くようにして欲しい。現状の生活を維持したい。

ご利用者様、ご主人と初回面接した際、「左手が動くようにして欲しい。生活では特に困っていない」との発言が聞かれた。ご利用者様へIADLの話をするも、あまり乗り気ではなかった。始めは左上肢の介入を行い、活動への関心を高めてもらうように関わった。

● 目標

3か月 ①洗濯物干しと畳みが出来る

②自室、廊下の掃除をクイックルワイパーで行うことを習慣化する

6か月 ③食器洗いを両手動作で行う

● 経過

・7月中旬～ 関係づくりから作業への導入時期

ご利用者様は、療法士が自身の生活について聞くと「その話はまた今度ね」などと答えてくれないことが多かった。ご利用者様は、「右手が動くようにして欲しい」との訴えが主であったため、リラクゼーション・関節可動域訓練に時間をさき、雑談をしつつ関係性の向上に努めた。少しずつ自身の話をしてくれるようになり、タオル干し、畳みを自身の役割としてしていると聴取したため、Tシャツを畳む、食器を洗うなど他のIADLを提案するも笑顔で話をそらされた。綺麗好きとのことで、クイックルワイパーでの掃除を提案、実施したが、ご利用者様の意欲は変わらず、習慣化出来なかった。

ご利用者様は、生活へのイメージがまだ不十分である為、療法士が導く形で目標を作成した。

・習慣化した活動：タオル干し・たたみ

● 他院との勉強会にて事例発表(9月中旬)

勉強会にて、元担当者や他療法士より下記のアドバイスをいただいた。

- ・習慣化できる作業を取り入れる。
- ・ご主人に協力してもらい、活動性向上を目指す。
- ・ご利用者様の生活歴、思いを大切に。

この3つのアドバイスを加味し、アプローチを変更、目標をご利用者様と共有することを目指した。

● 介入方針 ご利用者様の心に寄り添う

ご利用者様、ご主人に生活歴、ご家族との関係を聞く。それにより、ご利用者様の気持ち、これからの生活を一緒に考えていく。

・9月中旬～10月下旬 目標を再設定し、屋外での活動に興味を持てるようにした時期

目標：3か月

④手芸(OTと一緒に編み機を用いて、アクリルたわしを作製し、娘さんにプレゼントして喜んでもらう。)

⑤園芸(草むしり・花びら摘み、花植えをご利用者様主体で行う。)

6か月

⑥杖歩行で近くのコンビニへ行く(往復1.5km。自宅～横断歩道15m～コンビニ)

目標の再設定に当たり、ご利用者様の病前の生活、思い、ご家族との関係性などを重視した。その上で、ご利用者様が語ってくれた語りを大切にし、目標に取り入れた。

● 経過

④に関しては、左手指の巧緻性が低いことから、編み機(写真1)とOTの介助で実施した。手芸は、ご利用者様にとって深い思い出がある。ご主人と共働きしていた頃、まだ小さな娘さんが寂しくないようにと、マフラーや手袋を編んであげていたそう。その語りより今回、ご利用者様が病前、娘さんと思い出のある手芸を活動に取り入れて行った。現在、比較的工程の少ないアクリルたわしの作成初期段階である。

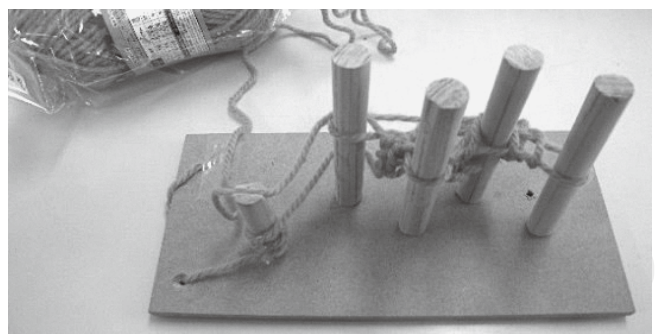


写真1(編み機)

⑤に関しては、ご主人が花の手入れをする機会に合わせて、ご利用者様も草むしりを行なっている。「家にばかりいると、気持ちが減入る」と積極性が見受けられた。花を育てることは、ご主人に任せてご利用者様は草むしり、花びら摘みを出来ることに喜ばれていた。

この時期よりご利用者様の左手指への機能面向上の訴えが減ってきた。主治医、娘さんのアドバイスより、外出することへの意欲がわき、毎日散歩する習慣がついて

きた。ご利用者は、初めは近所の目を気にして散歩に消極的な面もあった。しかし、ご主人に正のフィードバックをもらいつつ継続する事で、「散歩中に声をかけてくれる人がいた」と笑顔で教えてくれるなど、ご利用者の意欲が高まりを感じてきた。

・習慣化した活動：タオル干し・畳み

菊の花壇周囲の草抜き・花びら摘み
ご主人との散歩(毎日、朝昼2回実施。)

● 考察

今回、ADLは自立しているが、主体的な活動参加を行えていないご利用者様に対して関わらせていただいた。初めは、療法士から色々なIADLを提供したが、ご利用者様の主体性を引き出すことが出来なかった。

ご利用者様が、主体的な作業参加を行えていない理由として、3つの要因が考えられた。

1つ目は、IADLに対して、ご利用者様の思いの確認が不十分なまま、作業を提供した療法士に原因があると考えられる。

2つ目は、ご本人の焦点が身体機能面へ当たり、左手が動けば何でも以前のように出来ると思っていたことが原因だと考える。

3つ目は、家事を全て負担してくれるご主人への依存が挙げられる。

これらの課題に対して、出来るようなIADLを選んで実施するのではなく、ご利用者様の気持ちに寄り添うことが大切だと考えた。そしてご利用者様自身が、病前から

の生活歴や現在の思いを思い返すことが出来た。また、自らしたい活動を挙げることが出来たと考える。

手芸は、普段よりお世話になっている娘さんに感謝の気持ちとして、アクリルたわしをプレゼントすることを目標とした。現在作業中だが、完成した際には、娘さんにご利用者様が左手を使えない中、作製していることを誉めてもらうようお願いした。ご利用者様の頑張りを認めてもらうことで、自己効力感と意欲の向上を図っている。また、ご主人にご利用者様との散歩や園芸などの活動を一緒に行ってもらい、ご主人にご利用者様の良くなった点をフィードバックしてもらえるように声かけした。良くなった点に対しては、療法士がご主人にお伝えしつつ対応している。

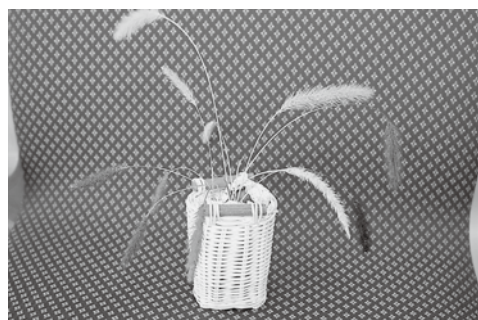
今回、身体機能が安定しているも、活動に意欲を引き出せないご利用者様と関わった。このご利用者様に対して出来るようなIADLではなく、ご本人様のしたい、という気持ちを大切にすることで活動性の向上を引き出すことが出来た。同時に、家族支援の大切さを再認識できた。この事例を通じて、より心に寄り添った関わりが出来るようになったと考える。

謝辞：事例提供に快く同意して下さったご利用者様、ご家族様、いつも助けてくださる皆様、本当にありがとうございました。



ご利用者様の作品アルバム

album





コラム

『ココトレで快和しよう 第4回 テンポ116のリズム運動』(10回連載)

本物ケア推進部 佐藤健志



今年もいよいよ押し迫ってまいりましたね。ココトレの連載も今回で第4回目。これまでの3回は、ココトレとは何か、という話題が中心でしたが、今回からはいよいよ実践編に移ります。

本でご紹介するのは、「テンポ116のリズム運動」。一日の始まりに適したココトレです。

突然ですが、みなさんは運動の習慣はありますか？

私事ですが、夏に足を怪我してから、当分は強度の強い運動を控えるようにDrに言われたこともあり、普段はエアロバイクを漕いだり、ウォーキングをしたりしています。もともと身体を動かすのは好きな方なのですが、メタボ中年になってしまっただけからは、とにかく運動するのが億劫で仕方がない。ただ歩く、という単調な運動は苦痛になって続かないので、好きな音楽を聴きながら運動をしています。

そうすると、やっぱり歩くのに適したテンポの曲というのがあるもので。そういう音楽を聞きながらだと、何となくですけど、疲れを感じず、どこまでも歩いていけるような気持ちになります。本日取り上げる「テンポ116のリズム」とは、まさにそういうリズムなのです。(以下、(有)ビュージックのホームページより転載)

現在、私たちが採用しているカレンダーは「太陽暦」と呼ばれるもので、1日は24時間とされ、近代になって全世界的な時間の基準として使われるようになりました。

ところが、人間の体内時計の正確さを計る実験を行ったところ、人間の体内時計は1日25時間であることが分かりました。太陽の1日(24時間)ではなく、月の1日(24.8時間)が、人間本来のテンポであることが判明したのです。普段の生活の中で、私たちは太陽光などを頼りにし、この1時間のずれを修正しているのだそうです。

太陽のテンポと月のテンポを数値化すると・・・

$24時間(太陽の1日) \div 24.8時間(月の1日) = 0.967$

太陽の速さを1とした場合、月の速さは、太陽よりも少し遅い0.967ということになります。

$60秒 \times 0.967 = 58.02$ (月のテンポ)

そして、振り子時計のように振り子が左右に動くカウントを2とした場合、太陽は1分間に120をカウントし、月は116をカウントする計算になります。

体内時計が「テンポ116」だとすると、脳の働きも「テンポ116」でしょう。字を読む、書く、考える、話すなどの行動を脳は「テンポ116」で行っているのにそこへ突然テンポ130のBGMなどが流れてきたとします。テンポ130を聞きながら体内時計は刻々と「テンポ116」を刻み続けています。脳は通常のテンポより早く働こうとし、焦りが生じます。

そうすると、多くのミスが生じたり、イライラが募り、ストレスの原因になります。

一方、テンポが遅すぎても、道路を制限速度以下で走るとなると、効率も下がってしまいます。

もしもあなたが、健康になりたかったら・・・

もしもあなたが、仕事に成功したかったら・・・

もしもあなたが、対人関係を良くしたかったら・・・

もしもあなたが、持てる力を十分に発揮したかったら・・・

「良いテンポ」を活用しましょう。

Tempo116で体内時計を正常に整え、皆さんの【ツキ】を呼んでください。

ある研究者によると、テンポ116のリズムをトレーニングに取り入れたところ、プロスポーツ選手の調子が上向きになった、という報告もあります。また、このリズムの音楽を流しているだけで、工場の生産効率が10～25%上がった、という報告もありました。こうしたことから、116のリズムは心身に活力と健康をもたらすリズムだ、とも言われているのです。

要は、1分間に116回のビートを刻むリズム、ということなのですが、「なんでこんなに中途半端なリズムが気持ちいいのかな？」と思ったのは僕だけでしょうか？

…実はこれには、きちんとした理由があるのです。それは、体内時計のリズム。体内時計は、脳内の「視交叉上核」の働きによるものです。

実験によると、ネズミなどは明るさが変化しないとこ

ろでも、体内時計の働きで、ほぼ24.8時間周期で、活動・休息（睡眠）を繰り返すことが確認されています。これは、前述の視交叉上核の、神経細胞の働きによるものだと言われており、この24.8時間周期のリズムを、「概日リズム」といいます。面白いことにこの周期、月の公転周期との相関がみられるそうです。よって、月のリズムは生体のリズム、ということが出来る訳です。

生物は、進化の過程で月の引力の影響を受けた、という仮説があります。実際、月の周期は元々我々が利用していた「暦」ですし、女性の生理周期なども、月の影響を大きく受けている。さらに言えば、潮の満ち引きに、生物の住まう環境は大きく影響を受けるわけです。とすれば、月の周期に、自らの生物進化を適合していった、とする仮説には、実に強い説得力があることがわかります。

月は地球の周りを28日周期で公転しています。上空に存在する月が、前日と同じ位置に来るためには、24時間後でなく、 $24 \div 28 = 0.8$ 時間だけ余計にかかります。

この影響によって、体内時計の基本周期が24.8時間になっている、とされているのです。

そして、これを割り算していくと。

1分間に58回のテンポが基本リズムとなって、休息を促す、心地よいリズムとなります。実際、このテンポは自然な「子守唄」のリズムに使われていることが多いのです。

そして、その倍の116テンポは活動のリズムとなって、覚醒、活性化を司るリズムになる、とされている。い

わゆる「行進曲」に使われるリズムなのです。そうやって理屈を抜きにしても、たしかに116リズムで歩いていると、なんだかとても気持ちいい。

歩いたり、走ったり、掃除したり、キーボードを叩いたり。いろんな活動の場面で使えます。各センター、ココトレでは読み上げマニュアルを使っていると思いますが、116のテンポで身体を動かすということであれば、どのような動き方をしても大丈夫。ただ、感覚的に行うことが重要ですから、難しい手順の動きは含まない方が良いでしょう。

リズム運動をすると、脳内にセロトニンがたくさん分泌されます。セロトニンが増えることで、心が安定し、体の調子が整えられていく。そうやって、心身ともに健康になっていく、という訳です。

次回は、人前であがりやすい人必見の、「段階的リラクゼーション法」をご紹介します。お楽しみに！！

～余談ですが、第7回本物ケア学会で私が発表した、「職員に対するメンタルウェルネストレーニングの、実践と効果に関する考察」が、(一社)メンタルウェルネストレーニング協会機関誌「Mental Wellness」で紹介されました。

創心会で行っているココトレの取り組みは、専門誌でも取り上げられる、注目度の高い取り組みとなっています。皆さんも、前向きにココトレに取り組んで、気持ちの良い毎日を送りましょう！

現場レポート

介護・福祉分野における外国人労働者教育支援事業

支援本部 内部監査室 室長
外国人労働者教育支援事業

事業開発担当 宮内 祥



人の超高齢社会をピークに供給過多状態もしくは事業者の淘汰が進むことが予想される。本業が介護サービス事業の企業は新たな介護サービス市場（海外）を切り開くのか新たな業態開発が必要になる。

日本の人口ピラミッドの変化

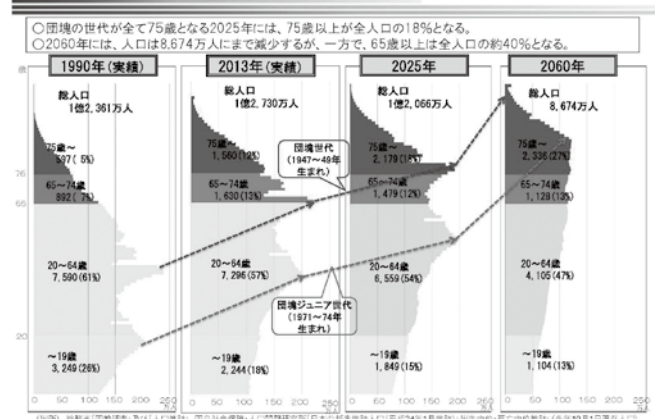


図1

●はじめに

1. 介護サービスの市場変化

日本の介護サービス市場は2025年、高齢者3600万

2. 生産労働人口の減少

現在の介護従事者は約150万人、厚生労働省は2025

年には約250万人が必要と試算している。あと10年で100万人の介護従事者を増やす必要があるということになる。

しかし、日本の人口は少子化の影響で年々減少傾向にあり、人口構造も団塊世代の高齢化により生産労働人口が減少していく傾向にある。介護従事者は増やす必要があるのに、働ける人は減っていくという中で、全産業が労働者確保に躍起になる中、介護従事者を順調に確保していくことは待遇面や労働環境の改善だけでどうにかなる問題ではないと考えられる。

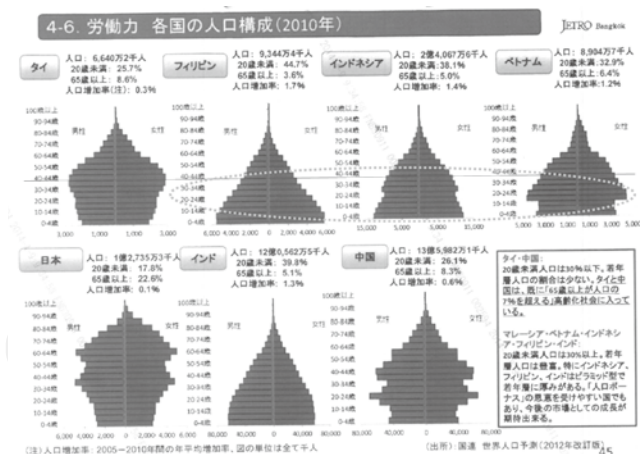


図2

※東南アジア、特にインドネシア、フィリピン、ベトナムは若い生産労働人口が多く存在しており、経済成長の原動力になっている。

3. 東アジアの高齢化

日本は2025年以降、高齢者数は緩やかに減少していく。一方、中国は現在1億人の高齢者数が2030年には約3億~4億人となる。また、韓国をはじめ台湾、タイなどASEAN各国も10年、20年遅れながら徐々に高齢化が進んでくる。日本の介護保険は施行され14年目。各国の高齢者介護・福祉は5年後10年後どのように変わっていくであろう。

海外人材の育成と制度

1. 制度

生産労働人口の減少する中で介護従事者を増やすという今まで以上に人材確保が困難になる時代が訪れようとしている。すでに介護サービスや介護人材育成事業を国外ではじめた企業は少なくない。介護サービス企業が海外で事業を行うにしても、外国人介護士を確保するにしても悠長に構えていることはできない。

しかし、外国人の雇用や育成には様々な法律や制限がある。その中で大きな制度に基づくものをあげると、EPA看護師・介護福祉士候補者受入事業、現在「日本再

興戦略」で議論されている技能実習制度、在留資格の特定活動の介護福祉士などの追加である。

2. EPA看護師・介護福祉士候補者受入事業

国際厚生事業団を仲介とする「EPA看護師・介護福祉士候補者受入事業」・・・EPAはさまざまな経済領域での連携強化・協力の促進などをも含めた条約で候補者受入事業はアジア地域を中心とした開発途上国の人材育成を目的としている。

看護師・介護福祉士の資格を取得出来れば雇用契約が続く限り在留資格の延長が可能。資格取得者が母国語と日本語、専門用語を活かして医療通訳にキャリアアップしているケースが出てきている。

3. 技能実習制度

技能実習制度とは・・・開発途上国等には、経済発展・産業振興の担い手となる人材の育成を行うために、先進国の進んだ技能・技術・知識（以下「技能等」という。）を修得させようとするニーズがある。

我が国では、このニーズに応えるため、諸外国の青壮年労働者を一定期間産業界に受け入れて、産業上の技能等を修得してもらい、その国の経済発展を担う人材になっていただくためのものである。

事業目的

今回の外国人労働者教育支援事業は今後規制緩和されていく中で外国人介護士が業界として必要とされる人材になっていただくための支援であり、また安易な低賃金労働者や不法労働により業界のイメージを損ねないためでもある。すでに外国人労働者は日本の労働環境（実習期間の短さや語学の壁）から英語圏や実習期間の長い台湾や韓国へ流れている状況もあるため日本は労働者のキャリア形成に向けたビジョンを提示していくことが必要である。

キャリア形成のポイントとしては、中国をはじめ日本以外の東アジア国内の介護・福祉の考え方や技術は日本に比べ遅れをとっている点も多く、創心会の「リハビリテーションケア」を外国人介護士の方にお伝えすることが出来れば、創心流リハケアが普及するとともに、プログラムやノウハウが活用されることは外国人介護士が母国で高齢者介護・福祉に貢献することにつながっていき、現地での介護人材としてキャリア形成が可能になる。

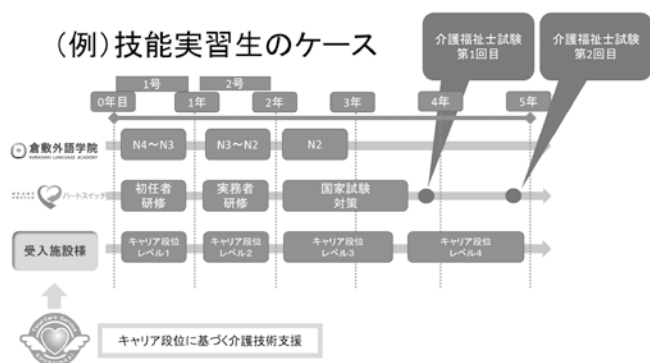
そのために、創心会グループの(株)ハートスイッチが持つ初任者研修をはじめ「研修開催」「資格取得」というノウハウを「組み合わせ」し提供していくことで優れた外国人介護士を育成することができるとこの事業をスタートさせた。



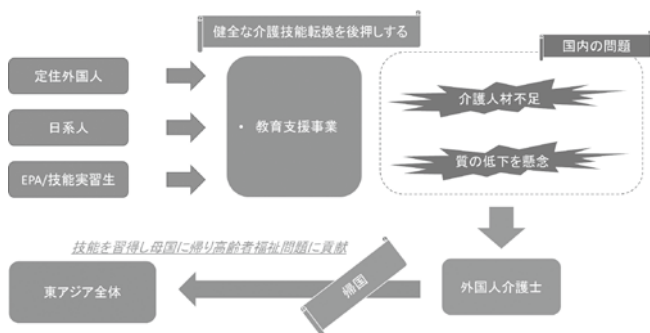
※組み合わせの一つが外国人への日本語（語学）教育としての倉敷外語学院様の存在。



倉敷外語学院様と9月29日、日本語教育における協力協定を締結。



キャリア段位制度に基づく介護技術の指導は施設、在宅問わず標準指標となっており技術指導の根拠として使いやすい。



● 提言

ベトナム人をはじめインドネシア、フィリピンから来日されるEPAの候補者たちは語学の問題によるコミュニケーションや筆記などの課題はあるが、人としての能力が決して劣っているわけではなく、母国語ではない語学を学び国家試験に臨むことを考えれば、人材として日本人にも引けをとらない存在ではないだろうか。

私たちは異なる文化圏から働きにきた労働者たちをどのように迎え入れる必要があるのか。

ほめ育の原先生は外国人を活用できる企業こそが将来成長する企業になる。そのために今までの労働環境を外国人にも働きやすい環境や組織に替えなければならない、それができた企業は日本人にとっても働きやすくなっており、結果として企業成長し組織力や定着率がよくなると言われていた。

また今後の日本のグローバル化、介護業界のグローバル化を見据えていく上で、どのような組織や環境をつくり、教育指導にあたり、人としての関わりを持てばいいのか、是非考える機会にさせていただきたい。

● 今後の事業発展

国内の外国人介護士の育成だけではなく、海外現地で育成事業や外国人介護士の人材紹介、介護サービス事業の発展にまで結びつけていき20年後の介護業界にも創心會の存在感を示したい。

出典

図1 総務省「国勢調査」「人口推計」
国立社会保障・人口問題研究所
「日本の将来推計人口」

図2 国連 世界人口予測2012年改訂版

総務に於ける地域の方との関わりとCSR向上に向けて

支援本部 総務

松本高幸



19期の基本方針である「事業活動の社会的価値を高める」を踏まえ、事業体として地域の方との関わり、信頼関係の構築は必須だと考えます。その地域に存在している以上、ご近所の方に迷惑をかけてもなりませんし、貢献していくことも必要で社会における存在意義をはっきりと示さなければなりません。グループホーム等に於いては、以前より民生委員の方とのお付き合いがあり、過去開催してきた祭りのイベント等には、多くのご近所の方も参加して下さっていました。

しかし今年度より地域との更なる積極的関わりを目的とし、本社総務を中心として地域の町内会に入ることを決定しました。今まで活動実績のなかった町内行事に参加することで、まずは町内に創心會の存在を知っていただくという所からのスタートでした。

とはいえ研修棟の設置や、来年開館の北館オープンの告知等で、町内の方へのお知らせする機会もあり、比較

的スムーズに町内に入会することが出来ました。

年間を通じて、茶屋町地域では企業からの参加はあまり例がない為か、町内役員の方より「企業が参加していただけることは嬉しいですね」とのお言葉もいただきました。

茶屋町町内は新興住宅地でもあり多くの人口も抱えていますが、町内活動はそう盛んなものとは言えないようです。どこの地区でも抱えている問題と一緒にですが、他地域からの流入の方も多く、年々地域の活動が衰退しているようです。私の住んでいる町内も同様な問題を抱えており、人口の割に年々活動自体が縮小しており、残念ながら人間関係が希薄になっているのを感じます。

4月以降、町内会に入会し町内回覧板が回ってきています。町内の方々の名前と並んで「創心會」の名前も掲載されているのは嬉しいものです。町内の一員になった実感がわいてきます。春の町内清掃、秋の運動会(残念ながら台風で中止でした)、そして秋季例大祭での御神輿担ぎに参加させていただきました。今回、本社と本部合わせて10名の方が参加し町内の方とも交流を持つことが出来ました。町内の方も「創心會」の人だから、と遠目で見るとでなく他の町内の方と同じように接していただきました。本当にありがたかった。私自身、「会社の人間だから、町内に住んでいないから」と気負うことなく町内の方と協力して何か一つの事に取り組むことで互いに信頼関係を構築していける第一歩になったのではないかと思います。

北館のオープンも控えた今、ようやく町内の方とも接する機会を得ることができ今後お付き合いも増していくこととなります。今以上に地域の方との信頼関係の構築に向けて活動していかなければなりません。地域に於いて今まで創心會が存在できたのも、地域の方々のご協力があってこそだと思います。前述のとおり、秋季大祭参加により来年からは北館も御神輿のコースに加えていただければ、敷地内で御神輿が「ワッショイ！ワッショイ！」と目の前で見ることが出来ることは、ご利用者様もきっと喜ばれるのではないかと想像すると嬉しい限りです。

● 社会やご利用者様の期待に応えられる 価値実現のために

コンプライアンスを守り、徹底していくことに於いて社有車の運用・管理・指導も疎かにしてはなりません。私は車両事故調査委員のメンバーでの業務にも参加させていただいております。毎週火曜日に事故発生内容の確認を他のメンバーの方たちと今後の対応を検討しており今年2年目を迎え、今後の方向性も定まりつつあります。今後の課題はどのように、事故を未然に防いでいくかを

更に具体的に進めていく必要があり、今はその前段階だと思っています。

現在、中途入社研修において「社有車トラブル管理と会社の信用・評価」というタイトルで研修時間を頂いていますが「介護の仕事の研修になぜ車の話が必要なのか？」と単純に思われる方もきっと多いのではないかと思います。企業に於いて社有車の安全運転管理を怠ることは、いずれ直接的なダメージを被るようなことが発生する要因にもなります。当然、地域社会への信用喪失にもつながります。普段、送迎業務を除きなかなか業務の一つとして捉えにくいかもしれませんが、ハンドルを握ることは、実は会社の業務の中でも重要な仕事の一つであり、会社の看板を背負っていることを忘れず常に緊張感を持つことが必要です。また社有車に限らず私有車に於いても同様であり社会的責任・信用を失うことにもなります。

今後は社有車に於ける業務、私有車に於ける通勤等も含め車両運行管理規定に沿って安全運転管理の徹底を図りCSRを果たすべく行動していくことが必要だと考えます。その為にも1人ひとりの意識改革、ご協力が伴わないと達成できないと感じています。そして創心會の地域に於ける存在価値を更に高めていくためには、19期の方針でもあるCSRの向上に向けた地域に根差した責任ある活動と社会的責任を担っていく上でもしっかりと取り組んで行かなければと強く感じています。



感動体験「心のバトン」

創心會に入社し得た経験

訪問看護リハビリステーション サテライト築港

理学療法士 田邊 由人

私が創心會に入社してから、はや半年が経ちました。時間の経過が早く感じるのはそれだけ充実した毎日を過ごしているからだと思います。



私が創心會を知ったきっかけは母校での就職説明会です。ご利用者様の心に沿った本物のケアという言葉に惹かれ、興味を持ったのがきっかけです。職場見学での同行訪問にも参加し、病院に対してご利用者様が安心してリハビリできている様子が窺え、家での生活の大切さを知る良い経験になりました。私は学生時代の臨床実習において、担当の患者様に対し退院に向けたアプローチを実施してきました。しかし、身体の機能面に目が行くあまり気持ちへの理解が不十分だったと思います。また、入院でのストレスにより、転倒のリスクを顧みず退院された事もありました。その際、もっと親密な関係を築く事で患者様の気持ちや心の訴えを引き出し、不安を減らせなかった自分の実力不足に悔しい思いをしました。ご利用者様の日々の状態変化によるADL状況の変化、それに沿ったリスク管理やアプローチが可能となる訪問リハビリ、創心會の経営方針に興味を持ち入社を決意しました。

創心會に入社し、岡山センターに配属されてからは先輩スタッフとの同行訪問、益野・岡山センターでのデイサービスに参加、退院時カンファや新規のご利用者様に対し契約書の説明など、多くの事を経験しました。訪問リハビリでは、単位数が決められた時間の中で効率の良いリハビリの進め方、絶妙な距離間を保ったご利用者様との関わり合いについて学びました。各先輩スタッフ

人ひとりが趣向を凝らし、安心させその気にさせる関わりは私の参考像となり目標にもなりました。私は人見知りで、緊張しやすい性格の為、当初は電話対応にも慌ててしまう事が多くありました。また、正確な対応や接客8大用語も上手く使えずにいました。私自身が緊張してしまうと相手にも気持ちが伝わります。その結果、思う様なサービスが提供できない時間を過ごしていました。ある時はご利用者様からリハビリ後、痛みが増強した理由でサービスの利用を中止になった事もありました。1日を終える度に反省点を振り返り、翌日の業務に活かせる様に心掛けてきました。先輩スタッフとの同行訪問にて、ご利用者様の行動や質問に対する正確かつ迅速な対応を見逃さない様に注意し、能力の一部として身に付けようと思いました。報告・連絡・相談の「ホウレンソウ」も大切にしたい事で業務が更に充実しました。私自身の中では「ホウレンソウ」を大切にしていたつもりでしたが、まだまだ甘く、書類処理での細かなミスや兼任のスタッフ間での連携不足に繋がっていました。その際、先輩スタッフから頂いた指導内容が、細かな出来事に対してもメモを取り相手へ情報を伝達する事です。ToDoリストを作成し、翌日行う業務のメモや出社時での1日の予定を確認する様にしました。ご利用者様の自宅へ訪問した際、疑問に思った点は業務携帯を利用し兼任スタッフやケアマネージャーへすぐに報告し、連携ミス減らす対策を取りました。また、岡山センター共有の情報はLINEのアプリを使用し、情報共有が更に充実しました。

入社してから今までの期間で、母校の学生が臨床実習生として来られました。ご利用者様に対し、より良いデイサービスの利用や福祉用具の作成、その人に合わせた関係の取り方について、考え努力する姿から昨年の私を思い出し感慨深くなりました。生徒から先生へと立場の逆転、教わる人から教える人になったと思うと今後の業務に一層身が引き締まりました。また、入社1年目の私は年齢が近い事から学生も気軽に話しやすいと考え、相談役の立場として接しさせていただきました。学生時代の臨床実習で学んだ経験はとても貴重で、過去の自分を振り返るといった意味も含めての考えでした。私が悩ん

でいる際、担当の先生から励ましや助言により心が救われた事を学生にも共有し、それを次の人に回して欲しい願いを込めての対応を取らせていただきました。長期的な目標を得る為には、まず身の周りの状況や課題を把握し、少しずつ自身の技術向上として高めていくのが私の考えです。これを今回、長期的な目標をご利用者様や初対面の相手に対する良好な関係性の構築、身の周りの状況や課題を学生との関わりに置き換え、日々の業務を過ごしてきました。学生にとって私が取った方法が良い経験へと結びついたかは分かりませんが、今後も様々な考えを取り入れ日々精進していきたいと思います。

創心會に入社し、ご利用者との関わりについても大きく変化したと思います。始めに記載した通り、私はご利用者様の心の本質への理解が不十分で退院に向けたリハビリしか実施できていませんでした。ある日、SMAPの木村拓哉が凄く好きなご利用者様から、「私の気持ちを手紙にして伝えたい」と話された事がありました。以前の私ならば急な要望で慌ててしまい、返答が困難だったと思います。しかし、ご利用者様の気持ちに対して傾聴

的な態度で話を伺い、連絡先の情報提供や執筆がワープロを用いた記入方法など、その場での円滑な対応を取る事が出来ました。また、長文的な内容を全て執筆で行う事が難しく、ご利用者様の伝えたい気持ちを私がワープロで代筆させて頂く提案へと話が進みました。その際、「1・2行でも良いのでご利用者様自身でペンを使って書いてみませんか」と目標と役割を提供する事にも成功しました。ご利用者様からも新しい目標が出来た事で普段よりも更に良い笑顔が見られ、新しい一面を知るきっかけにもなりました。このようなアプローチが図れたのは、今まで先輩スタッフとの同行訪問や新人研修、勉強会を通して得た情報であり創心會に入社し心から良かったと思える経験でした。

最後に、創心會に入社し多くのスタッフから助けていただき、支えられ今の私がいます。岡山ブロックの方達も凄く優しく頼りにさせていただいています。これから自身の感受性を高め、多くの技術や経験を学ぶ姿勢を忘れず、業務に取り掛かっていきます。次の心のバトンはリハビリ倶楽部築港の湯浅君に渡します。

支援できる喜び

生活環境プランニング

福祉用具専門相談員 谷口 諒

私は入社2年目を迎え、生活環境プランニングに配属となつては5カ月が経ちました。福祉用具が単なる補助具ではなく、



支援する人の想いまでも届けることができると思い、入社を希望しました。最近、福祉用具は身体的な補助だけでなく、心までも支えることができるものだと思感でき、多くの人の生活支援に関わりたいと思うようになりました。そのために話を聞くこと、他職種との連携で情報を共有することを常に心がけています。現在、福山・笠岡・倉敷中心部を担当し、5つの事業所を受け持っています。週に1度は事業所を訪問し、福祉用具にどのようなものがあるのか紹介をしています。

プランニングの業務には福祉用具の販売・レンタル品の貸与・住宅改修があります。

レンタル商品は、起居動作を補助するベッドや、段差を越える為の手すり、歩行を補助する杖・歩行器等があり、ほとんどのご利用者様が何らかの用具を使用されています。使用する事で障害や不安が解消され、身体を

補助するだけでなく、心の支えになっている方もいらっしゃいます。多くの方に福祉用具の知識をお伝えし、安全な在宅生活を行うための支援をしています。

デイサービスを訪問する度に、ご利用者様から声をかけていただくことが増え、やりがいと喜びを感じています。最初の頃は知識不足が不安で、訪問しにくい時もありましたが、スタッフの方がご利用者様の要望を聞き取って伝えてくれることで、事前に調べ、余裕を持って訪問をすることができています。納品は出来るだけ直接ご本人様にお渡しするよう心掛けています。顔を覚えてもらう事で、今後、相談しやすくなると思っています。スタッフの方ともコミュニケーションがとれ、今では相談や選定の機会をいただくことも増え、日々が勉強になっていると思感しています。

最近、本当に多くの問い合わせや注文をいただき、充足した業務が行えてきていると感じています。とくに2カ月に1度行っているキャンペーンでは、デイサービスで直接紹介させていただくことで、スタッフの方も協力してくださり、多くの受注につながることができています。現場のスタッフさんの意見を聞き、キャンペーン商品を選んだことで、要望に合った商品が提供できていることが結果につながっているのだと思います。

プランニングは、勉強会が多数あります。新しい商品が次々と出てきて、ご利用者様の状態にあったものの選定をするのに役立っています。レンタルの強みである、交換ができるという点から改良されたものが出ること

で、より状態にあった用具の使用ができるようになります。新商品が対象となる方を想像しながら聞いています。今後も勉強会に積極的に参加し、知識を高め、専門的な対応をしていきたいと思います。

私がレンタルを担当させていただいているK様。要介護3で70歳男性の方です。元気デザイン倶楽部に週3回通い、リハビリにも意欲的な方です。デイでは杖歩行をされていますが、在宅では車イスを自走し移動されています。担当者会議をした際、車椅子のメンテナンスをさせていただき、4年ほど同じものを使っている為、かなり汚れていました。そのため交換する事を薦め、後日交換をさせてもらう為に訪問させていただきました。交換中は奥様がお家族やK様の話をして下さり、まだ数回しかお会いしていないのに、いろんな情報が得られました。K様の話をされているときに、長時間座位で、お尻が痛そうと聞き、車椅子クッションの提案をさせてもら

いました。1週間デモで試していただきましたが、今はお尻の痛みもないから必要ないとお返事を受けました。私は薦め方に問題があったのかと気にしていました。ちょうど同じ日にケアマネジャーが訪問し、よくしてくれるという言葉によって、本当にうれしく思いました。まだまだ商品知識や薦め方など、学ぶことが多いですが、全ての利用者様からそのような言葉をもらえるように、支援していきたいと思います。

このバトンはりハビリ倶楽部玉島の小沼さんに渡します。



■訪問鍼灸マッサージ

対象となる方

歩行困難または歩行不可能（お一人では安全な歩行ができない方）、関節拘縮、筋麻痺などの症状がある方

往療範囲

創心會茶屋町本社から半径16キロ以内

利用料金

■マッサージ

1局所	2局所	3局所	4局所	5局所
275	550	825	1,100	1,375

■鍼灸施術

初回	2回目以降
3,170	1,660

■往療料金

～2キロ	～4キロ	～6キロ	6～16キロ
1,800	2,600	3,400	4,200

※1回の施術料金=(施術箇所+往療料金)×保険負担割合

訪問鍼灸マッサージは、「訪問リハビリを利用したいけど、限度額いっぱい利用できない」「介護度が下がったけど、今後の体のケアが心配」といった方に向けた新サービスです。

医師の同意書をもとに、健康保険を使用しご利用者様のご自宅でマッサージや鍼灸施術、簡単な筋トレや可動域訓練を行います。現在のケアプランを変更することなく利用していただけます。

デイサービスや訪問リハビリと併用していただくことで

相乗効果が期待できます。

また、1回の利用料金は300～600円くらいと経済的です。

初回は無料お試しで、サービスの内容の説明や実際に体験していただくこともできますので、ぜひ一度ご連絡ください。

連絡先

TEL 086-420-1500

訪問鍼灸マッサージ 宮尾大輔 まで



■ハートスイッチ



受講生募集中!!

介護職員初任者研修

1月生 木曜クラス、土曜クラス

受講料(教材費・税込): 割引キャンペーン継続中!

85,000円

*創心會スタッフの方は「資格取得支援制度」を使うと50,000円で受講できます。

介護福祉士実務者研修

1月生 土曜クラス

受講料(教材費・税込): 無資格者150,000円、ヘルパー2級(初任者研修) 取得者130,000円

*教育訓練給付制度が使えます。受講料の2割が返金されます(条件あり)

いずれの研修も、創心會スタッフの方がお友達・ご家族を紹介くださると...

受講料5,000円割引、紹介者に3,000円のクオカードをプレゼントします

お問合せ ハートスイッチ 新田事務所(内線3820)

「ADL評価モデル講師」候補者をご紹介ください!!

ハートスイッチ社会参加支援事業部では、ご利用者様の自己実現に向けた社会参加支援として、H24年度から県内外の大学、専門学校における作業療学科の学生に、アセスメントの授業を提供しております。講師（ご利用者様）と作業療法士が学校へ出向き、講師は身体機能、ADL、高次機能障害の評価を学生から受けます。現在、5名の講師が活躍しておりますが、一緒に活動して下さる講師を募集しております!詳しくはお問合せください。

講師イメージ:①就労への意欲がある ②自分の障害、病状について人前で伝えることに抵抗はない ③片麻痺であり、高次脳機能障害を有している ④40歳代~60歳代である

謝礼:講師料(時給2,000円)、交通費 をお支払します

お問合せ ハートスイッチ 倉敷校(内線3825)
担当/土居(作業療法士)、宇野

■和一久



配食部門

11月23日(日) くらしきフォーラム with AB-1 コンテストに出場しました!

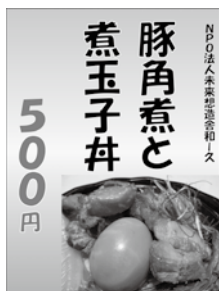
(会場:川崎医療福祉大学:倉敷市松島288)

AB-1コンテストとは

障がい者施設(就労継続支援A型、B型事業所など)がそれぞれの自慢のグルメ食料品を販売、各施設が、味や集客を競い、一般客の人気投票で勝敗を決めるというコンテストです。

和一久は今回「豚角煮と煮玉子丼 500円」の出品でエントリーいたしました。

仕込みの段階や販売で和一久A型のスタッフが大いに関わっています。目標の販売個数は400個とし、みんなで力を合わせ優勝を目指しました。



10月10日(金) 早島支援学校様からお弁当116個の注文を頂きました。

早島支援学校で開催される文化祭での職員様のお昼ご飯としてお弁当の御注文を頂きました。ここ最近早島支援学校様には懇意にさせていただいており前回のお弁当も大変好評をいただいたことから今回の注文に繋がっております。

また早島支援学校の卒業生であるA型スタッフの森さんや実習生の受け入れなどで今後も良い関係を作っていければと思います。

12月4日(木) 障がい者週間記念事業「ふれあいステージ」

倉敷市が主催されるこのイベントにて参加者の方から86個のお弁当の御注文を頂きました。

こちらのお弁当の注文方法は事前にお弁当業者(障がい者施設など)が提案したお弁当の中から参加者が選ぶというもので何個注文していただけるか全くわかりませんでした。しかし予想以上の86個という多くの注文を頂くことができました。これからも「和一久のお弁当は美味しい」「倉敷でお弁当といえば和一久だね」といわれるようにみんなの力を合わせて頑張っていきたいと思います。

皆様もイベントの際のお弁当の御用命は是非未来想造舎和一久をご指名ください。

和一久ステップ茶屋町初の一般就労!!

この度、和一久ステップ茶屋町A型より、初の一般就労が生まれました。

昨年3月より利用を開始されて、生活面、精神面で様々な葛藤をしながら、一歩ずつ障がいと向き合いながら、ようやくその努力が実を結びました。

実際に就労するのは来年の春頃ですが、就職が決まってからは、よりイキイキと日々の仕事に励んでくださっています。これが刺激になって、他の利用者も就労に向けて、意識を高めていけるよう、私達も支援に努めていきたいと思っています。

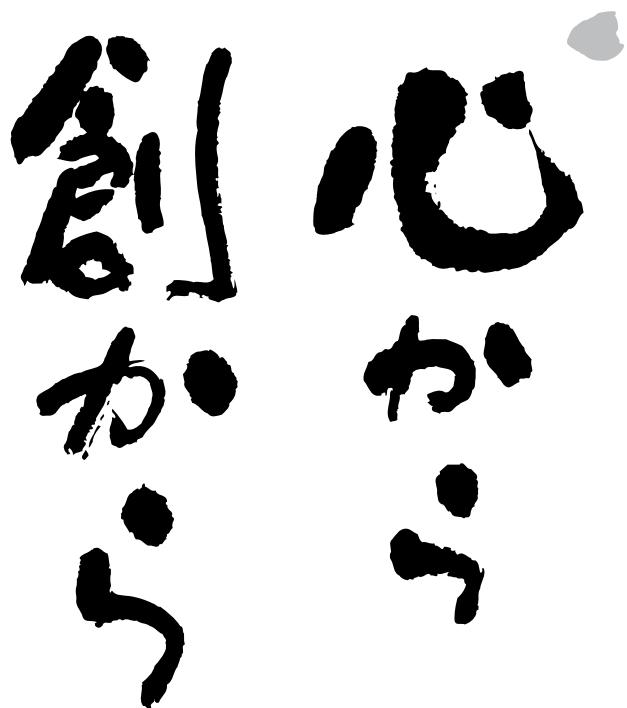
編集後記

過日「ポジティブ心理学」の提唱者として知られる博士の記事を目にした。博士が行ったのは「感謝」に関する実験。2つのグループに分け、1つのグループはお世話になった方に感謝の手紙を書き、訪問して直接渡すようにした。それを行わなかったグループと比較すると、訪問から1週間、更に1か月後と長期に渡って幸福感が続いたという。感謝を言葉や文字にして伝えることは、幸福感を2倍にしてくれるということだ。

私も同じ経験がある。手紙を受け取ったときの感動は、再びその手紙を手にしたとき、もう一度感動を呼び起こしてくれる。社内のスタッフ間で行きかう「ありがとうカード」。相手に感謝できることは本当に素晴らしい。相手に感謝できるからこそ、自身も幸福感で満たされるのだらうと実感している。(赤澤)

書名 株式会社創心會®機関誌『2014年秋号』Vol.23
The Journal of True Care
発行者 株式会社 創心會®
〒710-1101 岡山県倉敷市茶屋町2102番地14
創刊日 2009年5月1日
発行日 2014年11月28日
定価 500円(税込)

※無断転載は固くお断りいたします。



株式会社 創心會®